

環境・安全報告書 2011

Environmental and Safety Report



CONTENTS

- 目次 -

1. 編集方針 / 報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 東日本大震災への対応	3
4. 会社概要	5
5. 基本理念	6

Environmental

6. 環境マネジメントシステム	7
7. 2010年度環境目標及び活動実績	8
8. 環境配慮型製品の提供	9
9. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移、 個別のエネルギー使用の削減推移	11
10. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	12
11. 環境教育	13
12. 環境監査	15
13. 環境リスクマネジメント	17
14. 環境コミュニケーション	18
15. 地域貢献・工場独自の活動	20

Safety

16. 安全衛生管理	23
17. 環境負荷マスマランス	26

編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)の導入以来当社の環境活動をご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。今回は6年目となり、環境目標に掲げた活動はもとより、安全衛生活動の充実や社会貢献活動の強化などを図ってきましたので、これらについても併せて紹介いたしました。

又、内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」等の活動と共に、地域社会との共生としての社会貢献活動や行政施策への関わりに加えて、今回は東日本大震災への対応のご報告も含めております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン～持続可能な社会を目指して～(2007年版)」を参考としています。

報告対象範囲

報告対象期間

2010年7月1日～2011年6月30日
(2010年度)

報告対象

凌和電子株式会社
(本社、本社工場、元町工場、山形工場)

2

トップメッセージ

環境・安全報告書2011年版を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本年3月11日に発生いたしました東日本大震災で被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

当社でも、仙台地区の本社・各工場において被災しました。各工場の建屋で多少の損壊はあったものの、皆様のご支援と社員の頑張りにより、全工場において速やかに稼働を再開することが出来ました。

昨年のリーマンショックでの傷が癒え始めた矢先の大震災並びに福島第一原発の問題は日本経済に大きな影を落とし、半年経った現在でも予断を許さない状況です。さらに欧米の景気低迷による円高等も重なり、2011年も先の読めない混沌とした経営環境となるものと考えます。しかしながら、そのような中であって、当社としまして「創造と奉仕の精神」の社是のもと、お客様並びに地域社会に貢献すべく、全社一丸となって日々努力して参る所存でございます。

環境保全分野では、2010年度は第3期中期計画の最初の年にあたり、改善活動としての環境目標は全て達成することが出来ました。2年目となる2011年度の具体的な活動としては、従来からの「環境配慮型製品、サービスの提供拡大」「地球温暖化ガス排出量の削減」に加え、この夏の電力不足に対する政府の節電実行基本方針に順じ、全社的に夏季ピーク電力消費量15%カットのための節電対策に取り組んでおり、環境に優しい事業運営に努めております。

また、社会貢献活動では、周辺地域の美化活動の継続や献血活動、ポリオワクチンの海外寄付活動につながるエコキャップ運動など、活動の継続と拡大を進めております。活動をより身近なものに設定することにより、社員一人ひとりに、より一層の環境意識と社会貢献意識の向上と定着が図られました。

安全衛生活動としては東日本大震災での経験を生かした避難訓練を実施し、防災への意識向上に努めております。また災害ゼロの達成に向けて日々無災害記録を更新中です。

本報告書は当社の地球環境保全への取り組みと、2010年度の活動実績をまとめたものです。より多くの皆様にご覧いただき、当社の取り組みをご理解いただくと共に、忌憚のないご意見・ご要望をいただければ幸いです。皆様の引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

代表取締役会長 安藤正雄

代表取締役社長 斉藤仁司



このたびの地震・津波により
被害を受けられた皆様に
心よりお見舞い申し上げます。

2011年3月11日14時46分頃、三陸沖を震源地とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。この地震に伴う大津波によって三陸沿岸から関東地方沿岸の集落では壊滅的な被害が発生しました。

当社は被災地の地元企業として、一日も早い復興に向け全力で取り組んでまいります。

当社の対応・動き（主に被害の大きかった仙台地区）

3/11

3月11日(金)14時46分 地震発生

- ・身動きが取れないほどの強い揺れが190秒もの長い時間続きました。揺れが収まり次第、避難訓練の通り障害物のない駐車場に避難。点呼をとりました。
- ・停電等ライフラインがストップ。電話も一切通じず、工場間の連絡路も絶たれました。
- ・各工場長の判断で解散。交通機関もストップしていたため、従業員は社有車も利用し乗り合わせで岐路に着きました。

3/12

3月12日(土)安否確認の開始

- ・休日ではありましたが、総務課長や営業部長等が出社し、緊急事態連絡網を利用しての安否確認をスタートしました。
- ・ただし、依然としてライフラインは止まったままであり、安否確認は難航を極めました。

以降

以降の対応

- ・3月14日(月) 本社のライフライン(電気・電話・水道)が復旧し、全ての工場の従業員の安否確認が取れました。しかし依然として仙台市内は混乱し、ライフラインが止まったままの地区も多くありました。
- ・3月16日(水) 緊急経営幹部会を実施。今後について当分の間午前中のみ稼働と決定されました。
- ・3月23日(水) 通常稼働開始。ただし避難やガソリン不足により出社できない社員もいました。また、協力会社様より支援物資が届き、食料等入手が困難な従業員へ支給する体制をとりました。
- ・3月25日(金) お取引様へ現状報告の発信を行い、復旧へ全力で取り組むことを約束いたしました。



VOICE

大震災を振り返って



本社 総務課課長
舩屋 俊則

あの日からすでに半年以上が経ちました。仙台に来る前は大阪に住み、勤務先は神戸にありました。阪神淡路大震災を経験し、生かされた人生と思いながら生きてきましたが、仙台でまたこれだけの規模の地震を経験するとは夢にも思いませんでした。幸い会社・自宅共に津波被害は免れました。被害に合われた方々に対しては、何と申し上げてよいのか言葉も出ません。

さて、今回凌和電子として不幸中の幸いであったのは、従業員が全員無事であった

こと、そして本社工場が半壊程度の被害で済み、ライフラインの復旧が仙台地区では比較的早かったことです。従業員の安否確認、水の供給、通常営業の早期再開等々、全ては核となる本社工場が残ったお陰だと思えます。

今後も起こり得る大規模地震、宮城県沖地震は今後30年で起こる確率が99%とされています。今回の震災での教訓を生かし、危機的状況を前提とした会社としての管理体制を構築する必要性を認識しました。

当社の被害状況（4月7日発生の余震/震度6強での被害も含む）

工場の被害状況

該当工場	被害状況
本社	半壊
元町工場	一部損壊
山形工場	大きな被害なし

従業員の居所被害

	本人居所
全壊	7戸
半壊	10戸

2011年9月27日現在



本社：土台の亀裂



本社：建屋つなぎ目の剥離



元町：工作機器の転倒



元町：窓ガラス破損

人的被害

凌和電子の従業員は、本社・元町・山形全ての工場で全員無事であり、人的被害はありませんでした。しかし、一部従業員家族には津波被害により亡くなられた方もおりました。

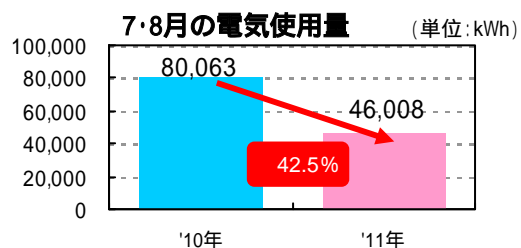
復興への協力

電力不足への対応

今夏の電力需給逼迫に対し、当社では従来からの徹底した省エネ活動をさらに強化いたしました。以下のような対策により、7・8月の電気使用量は昨年対比で42.5%の削減に成功いたしました。また、従業員に対しても、社内報などを通じて家庭内の節電の呼びかけを行いました。節電活動は今夏だけでなく、継続して取り組んでいきたいと考えております。

実施例

昼休みの消灯、蛍光灯の間引き点灯
室温の徹底管理（室温28℃）
スーパークールビズへの賛同・実施
PCの節電モード設定 等



今後の課題

震災から半年が経ち、復旧・復興は大分進んでいますが、この大震災での経験を今後の事業活動に生かすことも、私たちの大切な使命であると考えます。

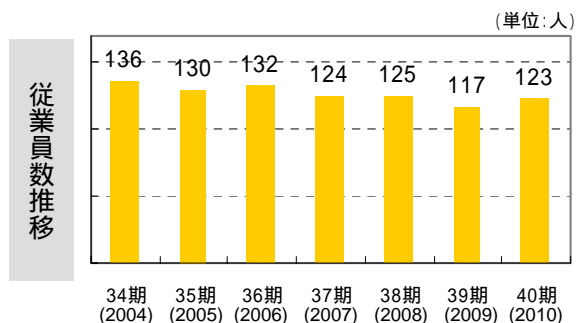
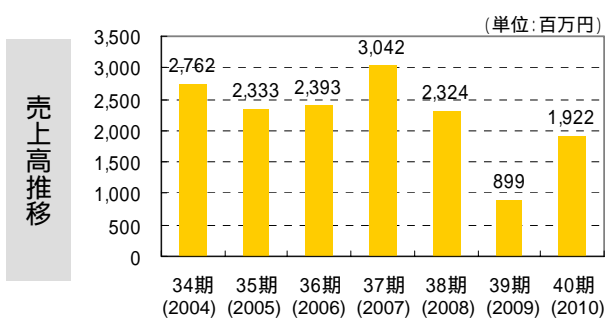
未曾有の大震災に際し、想定外の数々の事象に試行錯誤しながら対応する中で、多くの課題や反省が残りました。この震災での教訓を生かし、これからの当社の企業作りに反映させ、より良い企業市民であるために努力していきたいと考えております。

4

会社概要

創立	昭和47年 7月28日
資本金	7000万円
役員 (2010年9月1日現在)	代表取締役会長 安藤 正如 代表取締役社長 安藤 仁司 専務取締役 中島 正美 監査役 浅野 秀一
事業内容	省力化用機器、制御装置設計製作、工業用電子計測機器類設計製作、各種PCボードパターン設計製作及び実装、マイクロコンピュータ応用制御システム及び計測システム設計製作、自動機システム設計製作、磁性材料計測システム、画像処理技術、各種情報処理
規模	(本社)敷地:1274.03㎡(約386.1坪) 建屋:1098.24㎡(約332.8坪) (元町)敷地:1717.40㎡(約520.4坪) 建屋:1055.22㎡(約319.8坪) (山形)敷地:1866.94㎡(約565.7坪) 建屋:741.50㎡(約224.7坪)

沿革	1972(S47)	凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)
	1989(H1)	仙台市鶴代町に東部工場開設
	1999(H11)	山形市高原町に山形工場を建設
	2000(H12)	仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設
	2001(H13)	ISO9001:1994認証取得
	2006(H18)	ISO14001:2004認証取得
	2006(H18)	東部工場を元町工場に併合
	2008(H20)	ISO9001維持審査、ISO14001更新審査受審(認証継続)
2009(H21)	ISO9001更新審査(2008)、ISO14001維持審査受審(認証継続)	



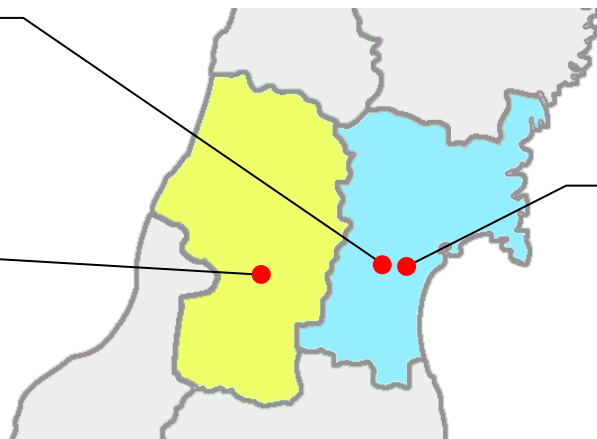
本社・本社工場

仙台市若林区南材木町



山形工場

山形県山形市高原町



元町工場

仙台市若林区六丁の目



基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に結びつけています。尚、2009年7月には新たに中期経営方針を定め、より明確な目標を掲げています。

企業理念

凌和電子株式会社は
「創造と奉仕の精神」をモットーに
日々、技術の研鑽に努め
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで
社会に奉仕します。

2009年1月1日
凌和電子株式会社
社長 安藤仁司

経営品質方針

基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

- ・規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
- ・新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
- ・改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
- ・当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
- ・顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

環境方針

基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づく環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

中期経営方針

スローガン

Let's try 20,30,40 !

業務改善を進め、**20%以上**の
生産効率UPを目指す
付加価値生産性の向上

積極的な営業展開で
売上**30億円**に再チャレンジ
主力事業、主力商品の確立

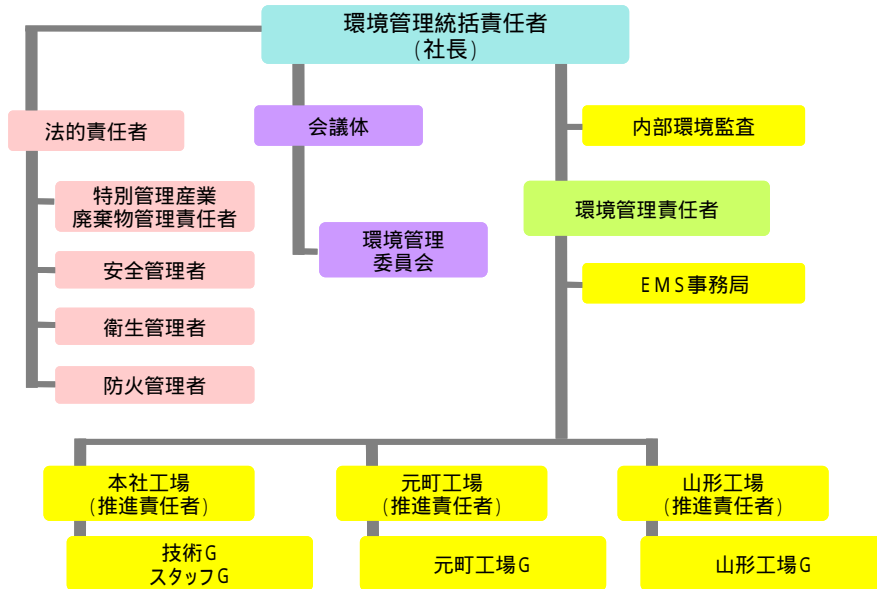
全社一丸で**創立40周年**
地域貢献活動の推進

6

環境マネジメントシステム

当社の環境管理体制は、2009年1月に一新し、社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。

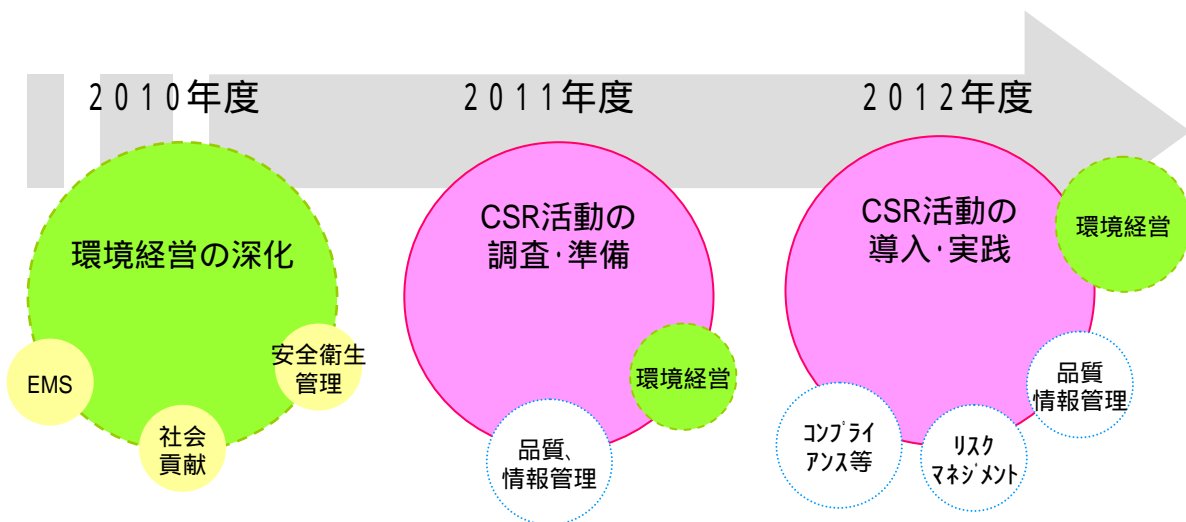
環境管理体制



(2011年9月1日現在)

中期計画の基本的な考え

当社では2010年度から新たに第三期中期計画(2010年度～2012年度)を策定し、更なる深化を目指しています。環境経営だけでなく、コンプライアンス、品質、情報管理、リスクマネジメント等を包含した[CSR活動]への発展へ向け取り組んでいます。



2008年10月に第1回目の更新審査を受け、認証継続となりました。

適用範囲: 本社、本社工場、元町工場、山形工場
 認証登録機関: Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.
 認証登録番号: 677923





2010年度環境目標及び活動実績

当社は、新たな中期計画に基づき2010年度の活動を推進してきました。目標の設定では、昨年度同様当社が重点目標と定めたものを改善目標とし、それ以外の環境目標の中で中期計画目標「2007年度～2009年度」を達成した項目を維持目標として、活動にメリハリをつけました。

その中でも、環境配慮型製品の提供は私達の使命と捉え、最も力を入れてきました。又、工場ごとに独自の自主目標を掲げた工場独自目標は、社員の関心や自主性を高められる活動として広がりを見せています。

2010年度活動実績(報告範囲:本社、本社工場、元町工場、山形工場)

2010年度は全社目標として改善目標5項目、維持目標3項目を掲げました。(環境コミュニケーション目標は4件を1項目としました) 結果として全項目達成となりました。

工場単位では、紙資源の削減で若干未達となったところもありましたが、その他の項目は全て達成しました。

評価基準

○:中期計画をクリア ⊕:計画対比100%以上達成 △:95%以上達成 ×:95%未満

実績算出

実績値(%):2010年度計画対比 / ()は同原単位比(人員ベース)

項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
	中期計画 2012年度	年度計画 2010年度	実績 (計画対比)	評価	
1 環境配慮型製品の提供	全製品環境配慮型化の推進	製品アセスメント実施60件以上 環境配慮型製品登録30件以上	アセスメント65件登録43件		P 9
2 地球温暖化ガスの排出削減	2005年度実績より10%以上削減	2005年度実績より6%以上削減	8.3% (6.3%)		P 11
3 廃棄物の排出削減 (一般廃棄物) 廃棄物の排出削減 (産業廃棄物)	2010年度目標維持継続	1.2kg/人・月以下	21.9% (23.4%)		P 12
	ゼロエミッション達成 リサイクル化推進	再資源化率95% (1工場以上)	元町:100% 山形:71%		P 12
4 オフィス用品のグリーン調達(調達率)	100%継続	100%継続	100%		
5 紙資源の削減(購入量) 節水活動の推進(水使用量)	2010年度目標維持継続	1.17kg/人・月以下	7.3% (5.1%)		P 12
	2010年度目標維持継続	0.66m ³ /人・月以下	9.2% (7.5%)		P 12
6 環境リスクの低減	環境コンプライアンスの拡大強化	緊急事態対応訓練の実施	各工場訓練実施		P 17
7 環境コミュニケーション	環境安全報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース 11回発行		P 18
	エコ生活推進	情報提供 (原則隔月)	エコ生活情報 6回発行		P 18
	地域・行政への協力	地域・行政への協力1件以上	・チャレンジ25参加登録 ・仙台みやぎクールビズ参加 ・仙台市まち美化サポーター登録・実施 ・環境配慮型事業所認定		P 19 ~
	工場独自活動の強化 (6件以上/工場)	工場独自活動の強化 (4件以上/工場)	全工場実施		P 20

No.1、2、3(産廃)、6、7は改善目標 No.3(一廃)、4、5は維持目標

維持目標の管理は管理値を基準として5%増までは管理内とする

工場独自の活動は20頁以降にご紹介しています

8

環境配慮型製品の提供

多くのお客様から、有害物質の排除や省エネルギー化などの環境対応製品が強く求められており、当社の環境目標の中でも特に重要と位置づけているテーマです。当社の計測、制御機器の設計、製造という事業形態からも使用時、廃棄時までを考慮する設計・製作の思想の浸透が欠かせないものとなっています。2010年度は前年度よりも更に高い目標を設定し取り組んできました。その結果、環境配慮型製品の売り上げは549百万円となり、前年度比180%となりました。売り上げ比率が下がっているのは全体の売り上げ金額の回復によるものです。

環境配慮型製品事例



LabVIEWチェッカー

RoHS指令対応品にて設計
分解・分離の容易化



カバー外観検査機

省電力化(47%減)
軽量化



推力測定機

軽量化
長期使用のため多品種に対応



SH7619搭載CPUボード

RoHS指令対応
小型化



PIN治具

RoHS指令対応
部品点数の削減
CEマーキング取得部品を多数使用



VOICE

製品アセスメントへの取り組み

今までにも大型物件についてはしっかりとアセスメントをしてきましたが、2011年度からは新規の物件は全てアセスメントを実施することになり、確実な広がりを見せています。

世の中の環境に対する動きも注視しながら、継続して実施していくことが大切だと思います。



元町工場 機械技術課
機械設計
浜田 竜也



反転ドラム方式画像検査機

メンテナンスの容易化。
長寿命化。



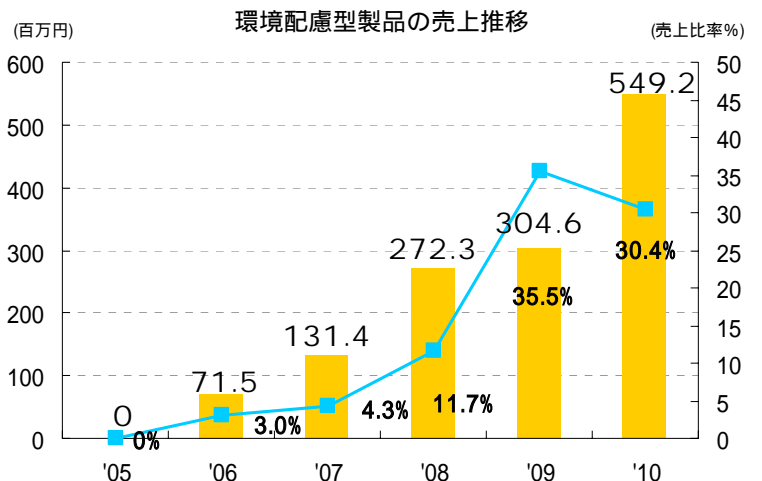
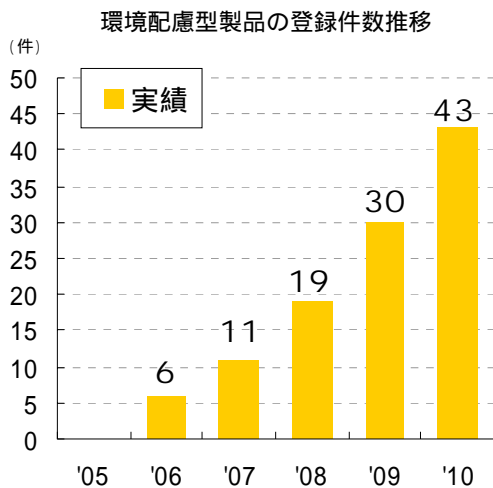
エリプソメータ

省スペース化

環境配慮型製品登録までの流れ



環境配慮型製品の推移グラフ



9

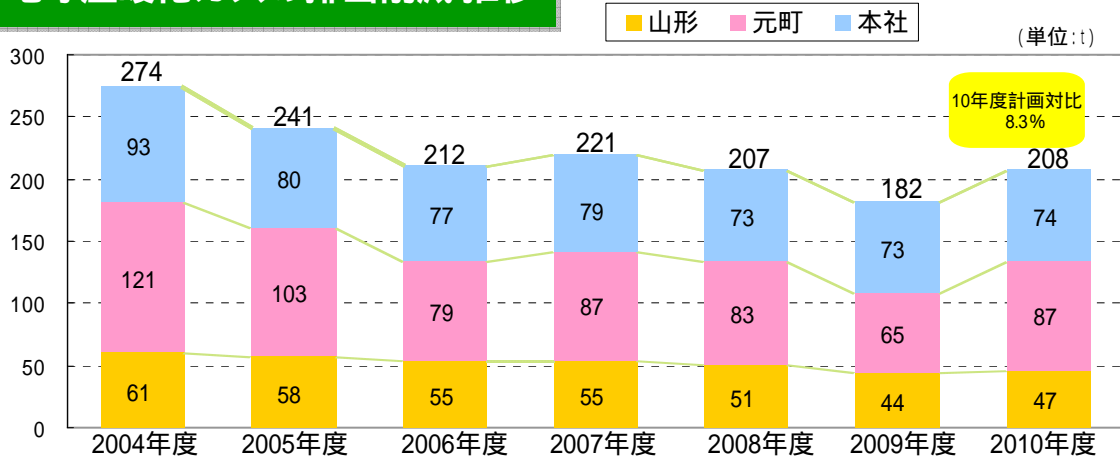
地球温暖化ガスの排出削減

当社は、事業活動に伴って生ずるあらゆる環境負荷の低減に努めています。特に地球温暖化の主因とされている地球温暖化ガスの排出削減については中期目標としてさらに高い目標を掲げ、削減の継続を図るべく取り組みました。

2010年度の二酸化炭素の排出量は208tでした。なお、前年度より排出量は増えていますがこれは事業活動の回復によるもので、計画対比で8.3%減となっています。



地球温暖化ガスの排出削減 推移

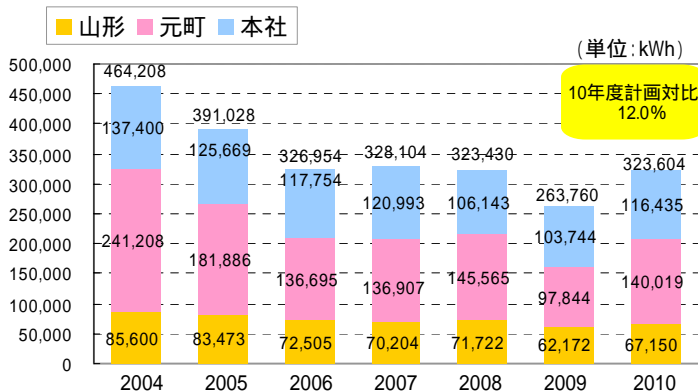


個別のエネルギー使用の削減推移

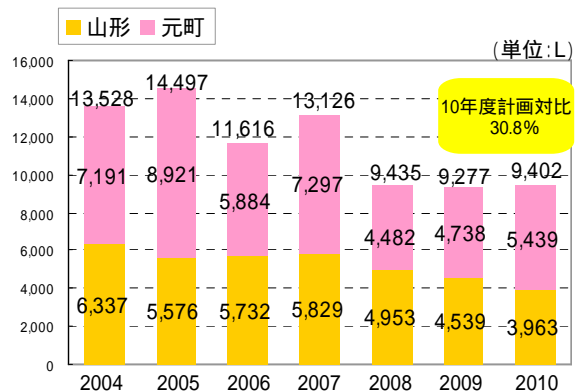
エネルギー源ごとでは計画対比で電気使用量12%減、灯油使用量30.8%減、自動車燃料24.6%増となりました。

ガソリンの使用量が大幅増となったのは事業活動の積極的展開に伴うものではありませんが、二酸化炭素排出抑制の観点から今後の課題として捉えています。

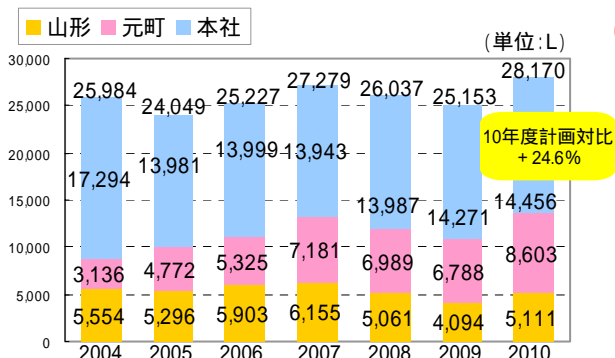
電気使用量の削減



灯油使用量の削減



ガソリン(軽油)使用量の削減



VOICE

節電活動への取り組み

元々節電活動は実施していましたが、震災後は更に力を入れて取り組みました。山形工場では蛍光灯の間引きやエアコン管理等を進めています。また、課員からパソコンの省エネモード設定の提案もあり、工場全体で高い意識を持って進めています。



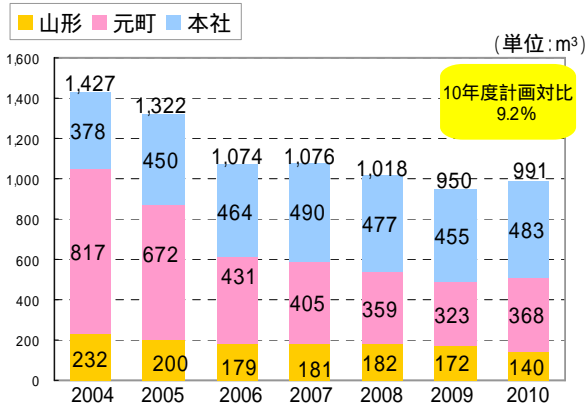
山形工場 工場長代理
羽島 俊男



省資源活動

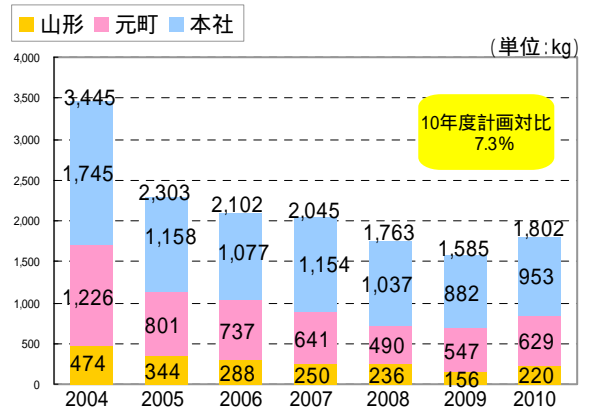
節水活動の推進

2010年度の水道使用量は991m³で、計画対比9.2%減となりました。震災直後大規模な断水となる中、本社工場では水が出たため、社員への給水を行いました。



紙資源の削減

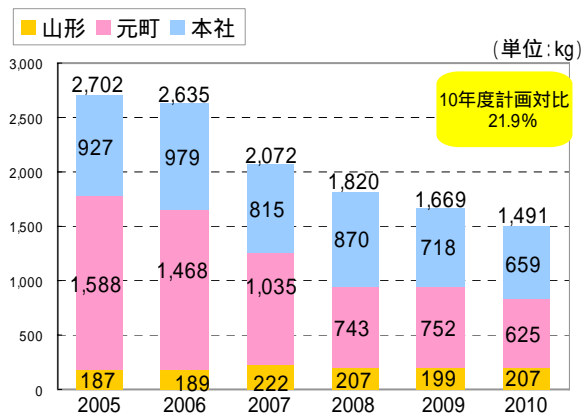
2010年度のコピー用紙等の紙使用量は1,802kgであり、計画対比7.3%の削減となりました。元町工場では計画未達となった項目ですが、受注件数の増により設計業務での使用量が増加したことによるものです。



廃棄物の排出削減

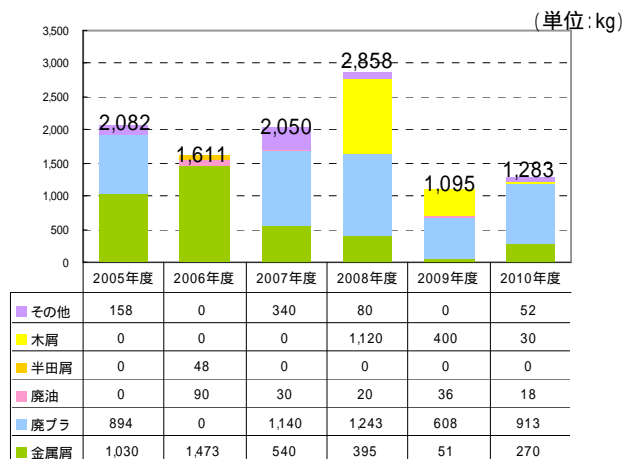
一般廃棄物

2010年度の一般廃棄物排出量は1,491kgとなり、計画対比21.9%減と大幅削減となりました。環境活動開始以来順調に削減がなされており、分別ルールの徹底や意識が社員に定着しているものと言えます。今後も維持継続することを目標として進めていきます。



産業廃棄物

2010年度の産業廃棄物の排出量は1,283kgでした。前年度に比べて17.2%増となりました。梱包資材の引き取りにより、木屑が大幅に削減できました。



2010年度実績は2010年4月～2011年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの



WATCH

当社では分別を徹底し、なるべくゴミを減らすように活動しています。テプラやインクカートリッジ、コピー機のトナー等リサイクルとして回収しています。また、自販機のある元町・山形では飲料容器は設置業者に回収してもらっています。



本社



山形

11

環境教育

当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。

環境教育の実施

教育名	実施部門	実施日	受講者数
経営層・幹部教育	品質管理課 (ISO推進)	本社 7月21日	4名
管理職・一般社員教育	品質管理課 (ISO推進)	本社工場 7月21日 元町工場 7月20日 山形工場 7月20日	130名
新入社員教育	品質管理課 (ISO推進)	本社 4月11日 (2011年)	5名
専門分野別教育			
REACH規制勉強会	品質管理課	本社 12月15日	18名
内部環境監査員フォローアップ教育	品質管理課 (ISO推進)	本社 8月17日	12名

・上表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「本社」としました

2010年
7月

階層別一般教育

階層別教育は、前年度の環境活動の結果と共に今年度の活動内容を全社員に理解してもらうこと、及び顧客の要求事項等の周知を目的として毎年7月に定期的に行っています。今年度もこれに加えて安全衛生教育も含め、環境安全衛生研修として実施しました。



本社



元町



山形



教育資料

2011年
4月

新入社員教育

2011年4月に新入社員5名を対象として地球環境問題や環境への取り組みの重要性、当社の環境活動及びそのルールなどを説明しました。



2010年
12月

REACH規制勉強会

2010年12月に専門分野別教育としてREACH規制の勉強会を実施しました。参加は自由でしたが、スタッフ部門を含む18名が参加しました。



2010年
8月

内部環境監査員フォローアップ教育

内部環境監査の質の向上及び監査レベルのアップを目的としてフォローアップ教育を行いました。



VOICE

凌和電子の社員として

2011年4月に入社して半年経ちました。研修や啓蒙ポスター、環境ニュース等で当社の環境活動がわかってきました。資源の分別や節電活動等、凌和電子の社員として一緒に取り組んでいます。また、まち美化活動や草取りにも参加しましたが、これからも積極的に社会貢献活動に関わっていきたいと思っています。



本社工場 研究開発部
宮澤 祥

内部監査への取り組み

昨年監査員として養成教育を受け、監査をする立場となりました。以前とは視点が変わり、環境活動の全体を見れるようになりました。実際監査をしてみると、的確な指摘やポイントを押さえた監査するには経験や知識が必要であることがわかります。意義のある監査が出来るよう、これからも努力していきます。



山形工場 技術課
生産管理 係長
佐藤 勝一

12 環境監査

当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001維持審査	外部審査機関による ISO14001維持審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査(全職場)	年1回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 5S、安全を含めての総合監査	年1回

監査結果

ISO14001維持審査

2010年10月に受審した維持審査では不適合なし、改善の機会2件でした。改善の機会とされたコメントに対しても全て改善に結びつけるために対応しました。

指摘項目	指摘件数	是正改善措置
要求事項を満たしていない事項 (不適合事項)	0件	-
改善を要する項目 (改善の機会)	2件	是正完



トップインタビュー風景



部門審査(本社)



現場審査(元町)



現場審査(山形)

内部環境監査

2010年8月に実施した内部環境監査では不適合4件、アドバイス11件の指摘がありました。不適合、アドバイスとも9月までに是正、改善を終えました。

受審部門	実施時期	不適合件数	アドバイス件数	是正状況
環境管理責任者 EMS事務局	8月18日	0件	1件	是正完
本社工場	8月18日	0件	3件	是正完
元町工場	8月20日	2件	3件	是正完
山形工場	8月20日	2件	4件	是正完
合計	-	4件	11件	-



環境管理責任者



元町(現場パトロール)

環境管理責任者パトロール

2010年10月に行った環境管理責任者主催のパトロールでは8件の指摘がありました。

受審部門	指摘件数	是正状況
本社工場	1件	是正完
元町工場	0件	是正完
山形工場	5件	是正完
全社共通	2件	是正完
合計	8件	-



山形



山形(現場パトロール)

13

環境リスクマネジメント

緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性ある要因として灯油の漏出事故を掲げています。今年度も給油時等での事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形



廃棄物収集運搬・処理業者現地確認

当社では、毎年委託している産業廃棄物収集運搬業者及び処理業者を計画的に訪問し、保管状況、作業状況、法対応状況等を確認しています。3月以降には震災による影響の確認を行いました。



リサイクル処理場A

法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありませんでした。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

当社に適用される環境法規制等

環境法規制等一覧		
大気汚染防止法 水質汚濁防止法 省エネ法 廃棄物処理法 家電リサイクル法 建設リサイクル法	労働安全衛生法 (鉛則、有機則) 消防法 毒物及び劇物取締法 フロン回収破壊法 自動車リサイクル法	宮城県公害防止条例 山形県環境保全条例 仙台市公害防止条例 山形市環境条例 仙台市火災予防条例 山形市火災予防条例

(努力義務は除く)

14

環境コミュニケーション

当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も引き続き社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、又社内向けには環境ニュース(毎月発行)、環境ニュース特集号(エコ生活情報)を発行しました。

当社のステークホルダー

行政・業界団体

- ・環境報告書
- ・ホームページ
- ・活動への参加・協力

顧客

- ・環境報告書
- ・ホームページ

取引先

- ・環境報告書
- ・お取引様へのお願い

株主

- ・環境報告書
- ・株主総会

社員

- ・環境ニュース
- ・社内Web
- ・環境掲示板

地域住民

- ・環境報告書
- ・ホームページ
- ・地域美化活動



情報発信

環境・安全報告書

当社の環境活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第6回目となります。



環境報告書2011

環境ニュース(エコ生活情報)

環境ニュースは、社員への情報提供として最も効果的な方法であるので、月1回の発行を継続しています。



環境ニュース

エコ生活情報

ホームページ

当社のホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示しています。

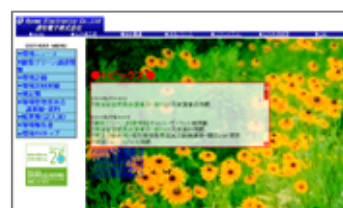


凌和電子ホームページ

社内イントラネット、掲示板

社内イントラネットに環境のコーナーを設け、環境規定類、帳票類、環境活動実績、環境情報、顧客の要求事項、環境に関わる議事録等を開示しています。

又、工場ごと、職場ごとに環境掲示板を設け、「活動の見える化」の強化を図っています。



社内Web

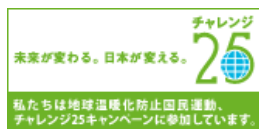


環境掲示板(本社)

地域、行政活動への参加、協力

チャレンジ25への参加

当社は地球温暖化防止のための国民運動であるチャレンジ25キャンペーンに賛同し、登録を行っています。このキャンペーンを通し、CO2削減への運動を広く呼びかけています。



啓蒙用ツール

エコにこオフィス

当社は環境配慮型事業所の認定更新を受け、継続してグリーン購入やごみの減量等を行っています。



認定証



ステッカー

仙台・みやぎクールビズ宣言

当社は2006年より継続して[仙台・みやぎクールビズ宣言]に参加しています。社員がバッジをつけたり、ポスターを掲示する等、エアコンの使用を控えることにより地球温暖化防止に協力しました。



バッジ



掲示用ポスター



宣言書

仙台市[エコドライブ・アイドリングストップ運動]

当社は社員の一層の意識向上を図るべく、ステッカーを社有車全車に貼り、二酸化炭素の排出削減とともに、更なる安全運転を心がけています。



ステッカーを貼った社有車

VOICE

クールビズ活動の広がり

当社ではクールビズ活動を始めて6年目になり、エアコンに頼り過ぎないように心がけています。特に今夏の総務・経理のフロアは1度もエアコンを使わずに過ごしました。

また、ノーネクタイで来社されるお客様も増えており、社会的にクールビズ活動が浸透してきていると感じています。



本社工場 総務課
稲村 愛

エコドライブの推進

営業部では車に乗る機会も多く、特にエコドライブを心がけています。アイドリングストップのステッカーの通り、長めの信号待ちや駐車時にはエンジンを切るようにしています。

ガソリンの使用量を減らすことは二酸化炭素を減らし、また、経費削減にもなります。一人ひとりの小さな積み重ねが大きな結果に繋がるのではないのでしょうか。



本社工場 営業部
菅原 剛

当社は、活動の更なる活性化と工場の取り組みに一層の自主性を持たせることを目途として工場独自目標を増やし、活動しています。

本 社 工 場



登録・参加して5年目となる「仙台市まち美化サポート」は地域貢献活動の一環として社員に定着しています。また、今年度は社会貢献活動としてエコ

キャップ運動に参加しました。その他FPGA化による部品点数の削減等、本来業務の部分での改善活動も引き続き取り組んでいます。

レジ袋削減・食品トレイ回収運動

近所のスーパー「八百ふじ」さんのレジ袋削減運動・食品トレイ回収運動にも継続参加しています。



八百ふじさん



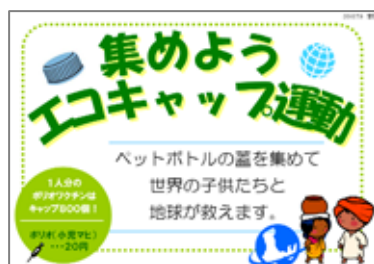
社内トレイ回収箱



マイバック持参
(回路技術課 千田幸子)

エコキャップ活動

2010年度から始めたエコキャップ運動は、各フロアに回収BOXを設置し、月1回集計をしています。集まったキャップでワクチンと交換が出来ます。



掲示ポスター



フロア回収BOX



回収されたキャップ

仙台まち美化サポート活動



清掃の様子

隔月で計画を立てて、工場周辺の美化活動をしています。仙台市へ活動結果の報告も行っています。



VOICE

まち美化活動で綺麗な街づくりへ

活動を始めた当初は、場所が住宅街ということもあり、ゴミの多くはタバコの吸殻でした。しかし年々ゴミの量は減り、最近では拾うゴミがあまりないほど綺麗な街になってきたと感じています。

また、活動中に近隣の住民の方から声をかけていただくこともあり、やりがいを感じると共に励みになっています。



本社工場 経理課課長
高橋 弘明
スタッフグループ
環境リーダー

元町工場



工場の周りの清掃活動に加えて、「仙台工業団地組合」主催の共通駐車場の清掃・草取り活動に参加しました。又、当社の呼びかけで組合内へ献血活動の

呼びかけを行い、活動の拡大を図っています。その他震災で見直された、自転車をはじめとしたエコ通勤の推進も行っています。

工場内緑化の推進

廃材を利用したプランターを作成し、季節の草花を植えて工場内の緑化を図っています。



工場内に設置されたプランター

エコ通勤の推進



拡大した駐輪場

震災以降、マイカー通勤をやめた社員も多く、3ヶ月に1度のエコレポート等でも啓蒙・推進しています。



エコレポート

工業団地行事への積極参加

・献血活動への参加



・共通駐車場の清掃・草取り活動



VOICE

工場内緑化の推進

4・5年前から職場の緑化活動が始まりましたが、園芸部長として選定や手入れを行っています。廃材で作ったプランターに咲く綺麗な花は、工場に彩を添えてくれます。仕事と直接関係はない活動ですが、大事なことだと思っています。



元町工場 機械技術課
課長
阿部 孝一

献血活動の積極参加

以前から献血には興味がありましたが、なかなかきっかけがなく、当社の献血活動が初めての参加となりました。組合内への活動の広がりがきっかけ作りの役に立てば嬉しく思います。今後も献血活動に積極的に参加していく予定です。



元町工場 機器製造課
機器配線
加川 雅俊

山形工場



地域貢献活動として、エリアを大幅に拡大した地域清掃活動を継続して実施しています。又、電子機器、装置等の修理事業件数アップも継続して目標を

立て取り組んでいます。本社工場へも広がりを見せたエコキャップ運動は、プルタブの回収へと更なる拡大に繋がりました。

修理事業件数のアップ

月30件の修理事業件数を目標とし、19.2%増で目標を達成しました。



修理件数の見える化

修理作業中の課員

在庫利用の推進

必要数量の5%を在庫から利用する目標を立て、実施しました。バーコードの利用や入出庫のサーバー管理によりミスを防止しています。



サーバー管理

バーコードの利用

在庫棚

拡大地域清掃活動



活動の様子



拾ったゴミの分別



エコキャップ運動の推進



(上)回収されたキャップ

(左)プルタブも回収



VOICE

地域清掃活動への取り組み

地域清掃活動は山形工場全員参加で取り組んでいます。地図を基に4班に分け、片道30分程度の範囲を掃除しています。バイパス沿いの道にはゴミも多く、1回の清掃でゴミ袋3つ分にもなることがあります。冬の寒い中のゴミ拾いでも全員が楽しみながら活動してくれるのでコミュニケーションの場としても大切にしたい活動の1つです。



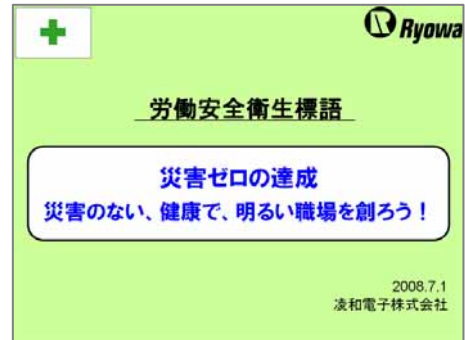
山形工場 製造課 主任

太田 陽介

16

安全衛生管理

当社は、[災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)]をモットーに安全衛生管理活動に取り組んでいます。2008年度以来労働安全衛生管理体制を一新し、「安全衛生活動計画」を策定し活動を進めています。これまで休業災害はもとより不休災害も発生していません。



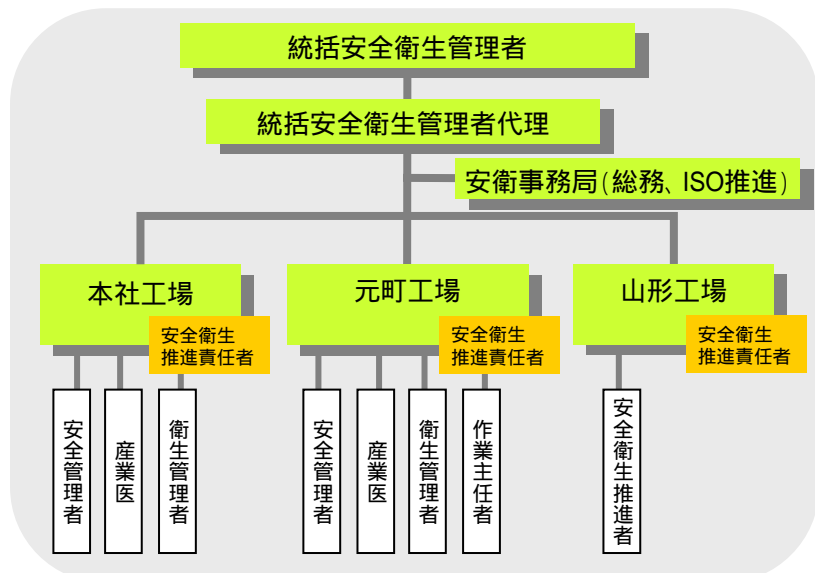
安全衛生活動計画と実績

2009年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	
	安全衛生計画の作成	
	安全衛生委員会の開催	
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	
	消防訓練の実施	
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	
	安全パトロールの実施	

安全衛生管理体制

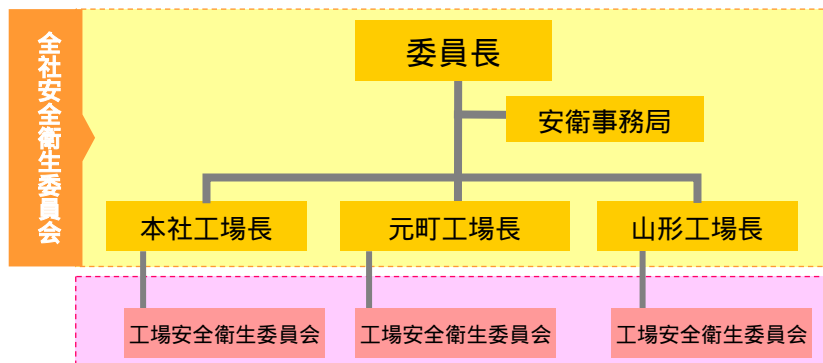
社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場ごとに推進責任者及び法定管理者を定めています。



安全衛生委員会組織

2008年度以降見直した全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。

工場の委員会では赤チン災害の報告も義務化し、大きい怪我の未然防止を図っています。



安全衛生委員会議題例

元町工場では、東日本大震災での工場への影響を議題として取り上げ、確認からフォローまで報告しています。



部材棚の飛び出し防止



金庫の転倒

安全教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。



本社



元町



山形



安全衛生教育テキスト

健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。

2010年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。今後も100%を目指します。

工場	定期健康診断 受診率	備考
本社	100%	受診者56名 / 対象者56名
元町	100%	受診者44名 / 対象者44名
山形	100%	受診者26名 / 対象者26名

トラッキング現象予防対策

トラッキング現象の予防対策として使用頻度の低いコンセントにはカバーをつけ、埃が入らないようにしました。



防火訓練・避難訓練

工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しました。今年度は東日本大震災の経験を生かし、さらに実践的な訓練を行っています。また、山形工場では消防署の協力でご指導いただきました。

本社

山形



地震避難訓練



救出訓練



点呼・報告



山形市消防本部よりご指導いただきました



救出訓練



消火訓練



VOICE

防災訓練への取り組み

山形工場では毎年防災訓練を実施していますが、大規模な震災後の訓練であることや、マンネリ化の防止も兼ねて山形市消防部の方にご指導いただくことにしました。水消火器を使った消火訓練や救助方法の指導等、外部の目が入ることで課員も新鮮な気持ちで取り組むことが出来ました。



山形工場 技術課
三澤 利昭
安全衛生推進者

安全パトロール

工場長、安全管理者、衛生管理者がメンバーとなり、隔月で安全衛生パトロールを施しています。



飛び出し危険への対応



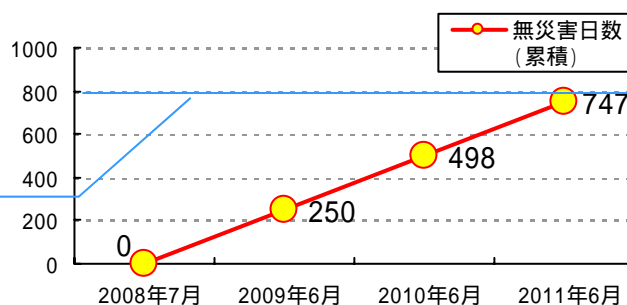
指摘事項例

- ・荷物の置き場整理整頓
- ・配線・ケーブルの整理整頓
- ・通路の確保 ・不要品の撤去 etc...

無災害記録

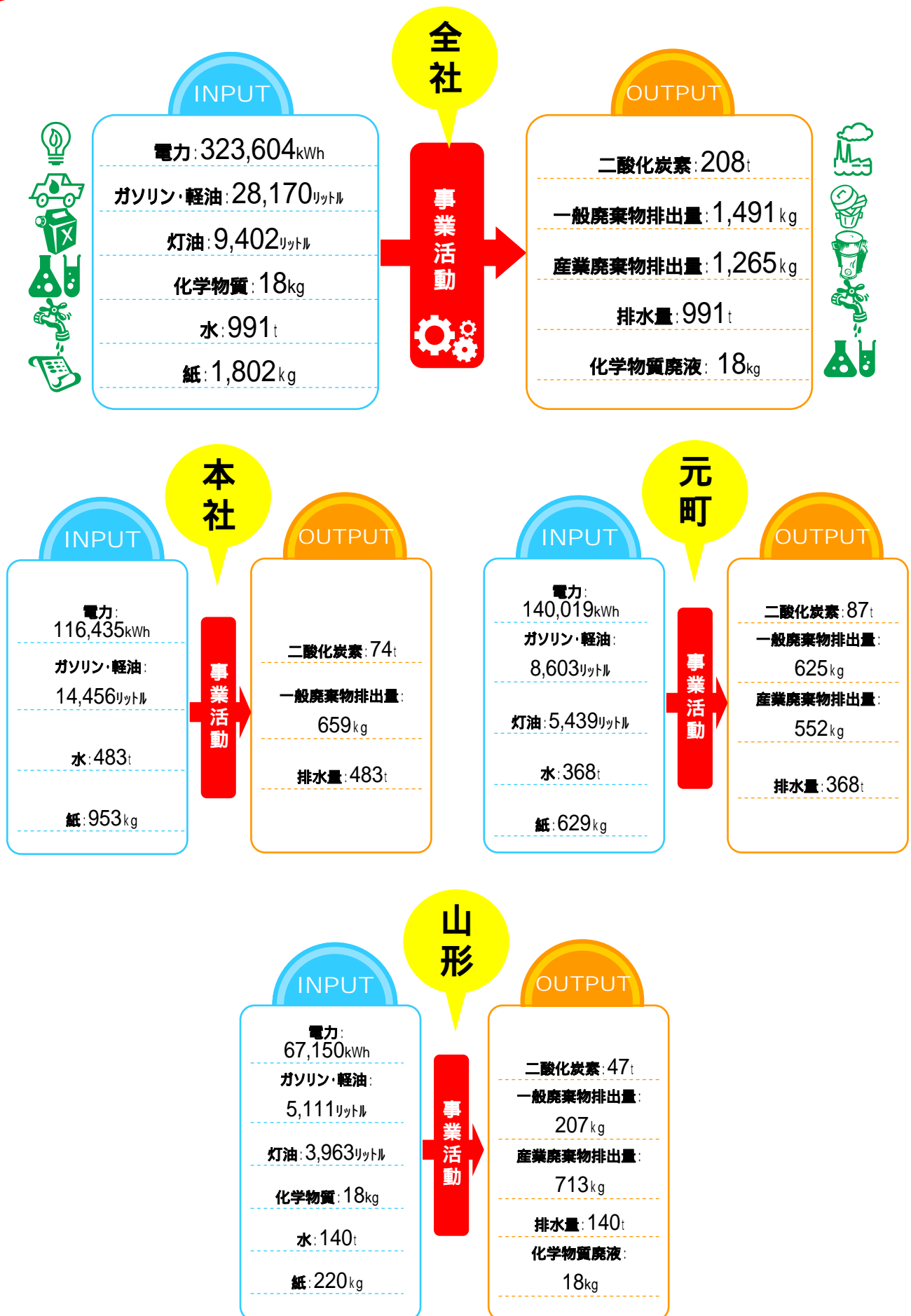
安全衛生活動をリニューアルして以来の無災害記録は747日[凌和電子40期(2011年6月30日)現在]となり、継続しています。

「中小企業無災害記録証授与制度」
第一種(努力賞)



17

環境負荷マスマランス



凌和電子株式会社

〒984-0805 宮城県仙台市若林区南材木町48番地

ホームページ : <http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

発行:2011年9月

次回発行予定:2012年9月

お問い合わせ先 品質管理課 ISO推進(飯田・永峯)

Tel : 022-266-4188(代表)

Fax: 022-268-7493